

平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金
(健康安全・危機管理対策総合研究事業)
「エステティックサロン衛生管理ツール」

エステティックサロンの衛生管理 導入の手引き

はじめに

財団法人日本エステティック研究財団発行「エステティックの衛生基準」をサロンで実行するための手順となります。別添の「エステティックサロンにおける衛生管理の注意点」「器具・用具類の消毒方法」「チェックリスト」をよく読み、準備を進めてください。

準備について

衛生管理責任者を決めます。衛生管理責任者は、日々衛生管理がきちんと実行されていることを確認します。



お客様の皮膚に直接触れるもので使い捨てでないものをリストアップします。
(使用しているものを集めるだけでもOKです)



使い捨てのものに転換できないかどうか検討する。(なるべく使い捨てにした方が作業効率向上につながります。コストや施術の演出等を勘案して慎重に検討して下さい。無理して衛生管理が続かないようであれば意味がありません。)



別添一覧表を見ながら素材ごとに分類します。



分類できたら、一覧表の中から消毒方法を選択し、消毒薬等を用意します。(消毒方法の種類はなるべく少なくします。) ※消毒方法は、一つの器具につき1種類を選択します。例えば、消毒を行う器具類がガラス管、スポンジ、タオル、はさみのときは、エタノール水溶液とハイター等タオルを洗濯する際の塩素系漂白剤の2種類で全て消毒できます。



使用済みの器具等を入れる蓋つきの容器と消毒済みの蓋つきの容器を用意しそれぞれ「使用済み」「消毒済み」の表示を付けます。



消毒の手順を決めます。(例えば、お客様1人ごとに消毒するのか最後にまとめて消毒するのか等)



別添チェックリストを見ながら、チェックの手順を決めます。(健康状態をチェックする担当者を決め、清掃は実施した人がチェックする トイレや水回りの清掃又はチェックは1日誰が何回行うか 等) 1日の業務の中でスムーズに行えるよう決めます。

エステティックサロンにおける衛生管理の注意点

1. 玄関・待合室

お客様からサロン内に持ち込まれるものを、最小限に防ぐ。(除菌マットを敷く)

- * 入り口でエタノールなどによる消毒。(理想は、手洗いをしてもらおう) おしぼり(一旦80℃以上に熱したものを60℃くらいで提供)も効果的。
- * 消毒後、拭き取ることが大切なポイントなので消毒用ウエットティッシュは効果的。
- * スタッフ自身も、外から入ってきたときは「手洗い・うがい」を実践する。

2. お客様が使用するものへの準備

使い回しは無いように注意する。(複数のお客様が同じ物を使用しない)

- * トイレ・手洗いの手拭きは、ペーパータオルが良い。普通のタオルを使用する場合はお客様ごとに交換。石けんは液体のポンプ式。
- * パウダールームのコットンや綿棒などは、蓋付きのケースに収納する事。ブラシ類をおくときは、使用毎に交換する。化粧品類の共用は避けた方が望ましい。
- * 施術ルーム内の、ハンガー・ワゴン(お客様の肌に触れた器具を置いた場所周辺)・収納ケースなどお客様が使用した道具は消毒して次のお客様に準備する。使用毎に取り替えるものは別。

3. シャワールーム・トイレの清掃 (常時換気しておくこと)

お客様が肌で触れる設備なので、特に注意が必要。

- * トイレは、使用毎とはいかなくても1日でチェックする回数が多い方が望ましい。
- * シャワールームは、使用后清掃し乾燥状態で管理することが望ましい。

4. 消毒のポイント

ゴム手袋を着用して行う。直接使用済み器具に素手で触れない意識が大切。

- * 洗浄と消毒の手順を最小限にしておく、効率的で消毒の不備や手のかかり具合が減ってくる。
- * タオル類は直接肌に接するものは、白地にすると塩素系の消毒も気にならずに行える。直接触れず表面にくるものは、サロンに合わせて色やデザインを選ぶと良い。
- * 消毒した全てのものが、密閉されるケース・容器・棚にて保管できるようにする。リネン業者に依頼しているタオル類は、使用直前まで袋に入れたままが良い。

5. サロン内は湿度が高くなりやすいので、換気は十分に注意し細菌やカビなどが繁殖しやすい環境を防ぐ。

器具・用具類の消毒方法

器具・用具類	消毒方法	エタノール水溶液	塩素系薬剤水溶液(ハイター等)	煮沸による消毒	紫外線照射による消毒	蒸気による消毒(蒸し器など)	逆性石鹼水溶液(オスバン等)	グルコン酸クロルヘキシジン	両性界面活性剤(テゴ-51等)
ガラス類	ガラス管・小皿・ボール・カップ等	○	○	○	○	○	○	○	○
木の材質	オレジンウッドステイクなど			○					
獣毛類	刷毛・ヘアブラシなど	○	○		○		○	○	○
合成ゴム素材	スポンジなど	○	○				○	○	○
陶磁器類	小皿・ボールなど	○	○	○	○	○	○	○	○
綿布類	タオル・バスマット・スリッパなど	○	○	○		○	○	○	○
合成樹脂素材	スパチュラなど	○	○		○		○	○	○
鉄素材	体重計など	○			○		○	○	○
ステンレス素材	ハサミ・ツイーザー・ナイルニツパーなど	○	○	○	○	○	○	○	○

※表内の○印は、その素材に適した消毒方法であることを示しています。

※タオル類については、塩素系薬剤水溶液を洗濯の際使用するのが望ましい。

①サロン内で使用する消毒薬は、種類を少なくすることで作業効率が良くなるので各サロンに適した選定をする。(すべての消毒方法をサロンに備え置くことではありません。)

②血液が付着した場合の消毒は、エタノール、塩素系薬剤、煮沸のいずれかを使用する。

(※注 別添「消毒方法」にあげられている方法をすべてそろえようと考えていると思われるコメントがあったため修正した。)

衛生管理に関する Q&A

この Q & A は、厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)「エステティックにおけるフェイシャルスキンケア技術の実態把握及び身体への影響についての調査研究」で行った衛生管理に関する調査でエステティックサロンの皆様から頂いた質問等をまとめたものです。

Q サロンの規模が小さく、「器具・用具類の消毒方法」にある消毒方法すべてをそろえられません。

A すべてそろえる必要はありません。目的は、サロンで使用しているお客様の肌に直接触れる器具・用具類を消毒することですから、その器具・用具類の材質に適した消毒方法を表の中から一つ選択して実行して下さい。消毒方法の中からエタノールや塩素系薬剤水溶液等幅広く使用できるものを選び、これらで消毒できる素材の器具・用具類で統一すると消毒方法を 1 種類準備すれば目的を達成できます。

Q 機能性よりファッション性を重視した内装にしている関係上、消毒液による劣化が激しいものがあるが、どうしたらよいか。

A プラスチックや金属には多くの種類があり、熱に強いもの弱いもの、酸性の薬品で変質しやすいものしにくいもの等それぞれ特徴があります。消毒を行う前にその素材がどのような特徴をもつのかを把握したうえで消毒方法を選択して下さい。(一般的には、変質しやすい素材でも消毒後きれいにふき取れば変質しにくいとされています。)

素材が分からない場合は、メーカーに素材の特徴と最適な消毒方法を問い合わせみてください。

なお、木製の家具は、エタノール含有のカット綿でふき取り、布製のソファ等の場合は、カバーをかけ、適宜はずして洗濯消毒するようにしてください。

Q 医薬品ではない除菌消臭効果をうたった市販品に効果は期待できるか？

A 除菌は菌量を減らすこと、抗菌は菌の増殖を抑えることを意味していて、いずれも消毒薬に求められている殺菌の効果はありません。個々の商品が機器等の消毒に適しているかどうかについては、薬局などにお問い合わせください。

Q スペースがなく蓋付きの容器を置けない、いちいち蓋をあけるのが面倒で蓋をあけたままにしている。

A 「消毒済」と「使用済み」の蓋付きの容器が必要なのは、消毒済みの器具類が浮遊する細菌等で汚染されないこと、使用済みの器具類を誤って再利用しないことや感染物質が拡散しないことが目的です。ですから、消毒済みの器具類は蓋付き容器もしくは扉が閉まる戸棚等への保管が望ましく、使用済みの器具類は消毒するまで蓋付きの容器に隔離する必要があります。例えば、スペースがないあるいは施術中にひと手間かけられない場合、一人のお客様への施術で使用する器具類を小分けして小さな容器に収納し、施術時に開封することでほかのお客様に使用する器具類は、安全に保管できます。このように目的を理解したうえで、業務の支障にならないような工夫をサロンごとで考えてください。

Q 感染症を予防する対策を教えてください。

A 感染は、身体の中に細菌やウイルスなどが侵入することで起こります。感染症を予防するためには、身体の中に細菌やウイルスを侵入させないことが重要です。そのため、接触感染、空気感染、飛沫感染等主な感染経路のメカニズムを理解して対策を講じます。手に傷がある場合には手袋をする、施術前後に手洗いと手指の消毒をする、人が良く触る箇所やトイレ等の感染のリスクの高い場所の消毒を徹底する、インフルエンザなどの流行時期にはマスクをする、などを実行して細菌やウイルスの身体への侵入を防ぎましょう。室内の換気をこまめに行い、施術の際に皮膚に直接触れた器具の取扱いも慎重に行います。また、直接皮膚に触れる器具やタオル類を複数の人に使用しないようにしてください。虫を介して感染するものもありますので、サロン内に虫が発生しないように清潔に保つことも大切です。

なお、感染症はご自身のお客様や他の従業員を介して、感染が広がる可能性があります。感染症にかかっている可能性がある場合には、速やかに医師の診察を受けてください。